



クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
口癖 でまっすん..

ふじのだいごころざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)

に説明すると宇宙観を表現しておるんじゃ。曼荼羅は古代インドに起源を持ち、中央アジア、日本、中国、朝鮮へと伝わったんじゃ。共通して伝わるのではなく、独自の文化に変化したんじゃよ。富士山は、胎蔵界曼荼羅(たいぞうかいまんだら)を言うんじゃ。

『今日は、「内八海・外八海」についての話をするぞ。一般的な説明では、富士山に登る前に身を清めるために、八海巡りをすると言うんじゃが、なぜ、内・外八海は富士山を一周するような形態だったのかその意味を考えてほしいんじゃよ。』
『それは、仏教の曼荼羅(まんだら)と深い関係があるでまっすん。』
『そうなんじゃよ。曼荼羅は、簡単

八葉の蓮の中心に大日如来様がいて、八枚の花びらには四体の如来様、四体の菩薩様が描かれているんじゃ。明治の廃仏毀釈以前は、お鉢巡りは、如来、菩薩を巡っていたんじゃが、現在は、それぞれ違った名前になっておるぞ。富士山頂を八葉と見立て、富士山を中心に内八海「富士五湖・明見湖・四尾連湖・須戸湖(沼津・富士市)」ならば、八葉になるんじゃが、富士吉田の泉瑞湖となると、八葉にはならないと言う説が濃厚なんじゃよ。それに比べて、外八海(霞ヶ浦・中禅寺湖・榛名湖・芦ノ湖・諏訪湖・桜ヶ池・二見ヶ浦・琵琶湖)は広範囲じゃな。ところが、忍野八海は、曼荼羅の宇宙観ではなく、小宇宙を表現したんじゃ。富士山信仰においては斬新な発想だったと思うぞ。』

『そう言えば、いつの時代から、「根元八海」から「忍野八海」になったでまっすん?』
『昭和5年に、忍野八海は天然記念物に指定されたんじゃよ。当時は、現在のように民家はなかったからのう。草むらの中に、ぼこぼこ水が湧いているところが何カ所もあって、その様子はとても幻想的で、小宇宙のように見えたかも知れないな。その時の記載が「忍野八海」だったんじゃ。それ以後、「根元八海」という言い方はしなくなってしまったんじゃ。細かい話になってしまうがな、お釜池と底抜池は関東大震災によって、天然記念物に指定された時とは位置が変わっているんじゃよ。』
『自然の力は、想像を超えることばかりでまっすん。また、時代の流れに逆らうことはできないでまっすん。おいら達の役目は、今分かっていることを、後世に伝える努力をすることでまっすん。忍野八海は、八つの池それぞれが富士山世界文化遺産の構成資産に登録されたという意義を深く受け止めなくてはいけないでまっすん。後世に残す努力は、簡単なことではないでまっすん。』
『その通りじゃ。少しずつじゃが、忍野八海の観光パンフレットなどの記載に変化を感じておるんじゃが、まだまだ、文化的な魅力より自然の魅力に負けてしまっておるのが残念じゃな。わしらももっと努力が必要ということじゃな。次回は、忍野八海について話をしようかのう。』